

1 目指す学校像

教育目標 よく考える子 心ゆたかな子 たくましい子
「和」と「活力」にあふれる学校

- (1) 児童相互、児童と教職員、職員相互に温かいつながりがある学校
- (2) 学習や諸活動への意欲を高め、考える力や協働・思いやりなどを身につける学校
- (3) 運動に親しみ体力向上や健康・安全への関心・意欲を高める学校
- (4) 地域・保護者と連携し、地域社会の核の一つとなる学校

☆「和」にあふれる具体像

<児童に関して>

- ・ 明るいあいさつや会話がとびかっている。
- ・ 友達を思いやって行動する姿がみられる。
- ・ 迷惑をかけないよう気をつけている。
- ・ 協力して活動する姿が多くみられる。
- ・ 互いの個性や違い、伸びや努力を認めようとする雰囲気を感じられる。

<職員に関して>

- ・ あいさつや会話を気軽にしている。
- ・ 互いにサポートしようとする姿勢をもっている。
- ・ 互いの良さを認め、学ぼうとしている。
- ・ いろいろなことを気軽に相談し合っている。
- ・ 温かさやユーモアを感じさせている。
- ・ 学年や学校の方針に沿って、協働している。

☆「活力」にあふれる具体像

<児童に関して>

- ・ 知的な好奇心が旺盛である。
- ・ 向上心があり学習や各種活動への意欲がある。
- ・ 考えるや追究することに喜びを感じている。
- ・ 健全な批判精神や競争意識をもち、学び合い競い合っている。
- ・ 元気に楽しみながら運動している。

<職員に関して>

- ・ 児童と共に過ごす時間を楽しみにしている。
- ・ 日々の授業に工夫を加え、子どもの成長を喜んでいる。
- ・ 授業や指導の工夫を公開し合い、高め合っている。
- ・ 教育に関する建設的な討論をしている。
- ・ 共同の活動に進んで参加し、寄与している。
- ・ 運動や文化的活動に関心を寄せ、楽しんでいる。
- ・ 学校や学年の方針に沿って活動しながら、創意を生かし改善している。

1 中期経営目標と方策<3~5年程度先を見据えて>

- (1) 人権尊重の精神、いじめや暴力否定の心情、規範意識、協働・共生意識、奉仕の心を定着させるとともに自尊感情を高める。
 - 児童の自尊感情や自己肯定感を高める指導を充実する。
 - 人の気持ちや考えを感じ取り、大切にすることができる能力を育成し、いじめや暴力などのない安心感と潤いのある学校生活を送れるようにする。
 - 主体性・協調性を育む特別活動などの充実を図る。

●基本的な生活指導を徹底させる。

(例) ・あいさつをしっかりとる ・友達を「さん」「くん」つけてよぶ ・人の心や体を傷つけない ・危険なことをしない ・時間やきまりを守る

- 「生活スタンダード」＜学校生活のきまり・給食・清掃＞を改善し、全校的に系統的な指導・振り返りを展開する。
- 道徳教育の充実を図る。
- コミュニケーション能力、合理的な問題解決能力を育成する。

(2) 授業改善を推進し、学ぶ力を育成・定着させる。

- 学ぶ意欲や考える力、コミュニケーション能力、言語活動に関する能力、自ら課題をみつけ追求する態度等を高めていく指導を展開する。
- 生活科・総合的な学習の時間の計画を具現化し、継続的に発展させる。
- 学校図書館の活用や読書活動を充実させる。
- 「学習スタンダード」を改善し、全校的に系統的な指導・振り返りを展開する。
- ICT器機を継続的に活用し、学習意欲・学習効果を高める。
- 学習指導要領に応じた教材・教具等を蓄積・整備する。
- 一人一人の目標をより明確化し、個に応じた指導を展開する。
- 「考える」「話し合う」ために必要な要素を分析し、学校として段階的に身につけさせる。

(3) 体力の向上・健康の保持増進・安全への態度を定着させる。

- 体育学習を充実させる。研究内容を生かした指導を継続的に展開する。
- 運動の日常化を図る。
- 健康教育を充実させる。＜非喫煙・薬物乱用防止・食育・心の健康・生活習慣病予防等＞
- 安全教育を充実させる。＜生活上の事故防止、防犯、交通安全、防災等＞
- 体力テストの継続実施および結果の活用方法を工夫する。
- 運動検定表の作成と体育的活動の時間活動案について、検討し実施する。

(4) 学校改善を推進する。＜学校力・組織力の強化、地域・保護者との連携強化＞

- 「教育計画」の充実・活用
年間の学校の動きがより詳しくわかる冊子作り
- 学年会の充実
 - ・週1回以上実施し、各学級の情報の共有、指導の方向性統一を
 - ・教材研究の分担、指導資料の共有・蓄積
 - ・交換授業、交流授業、合同授業の活発化
- ★企画委員会の充実
事案処理は事前の資料配付で。ポイントを絞り効果的に。情報交換を充実。
- 各組織の活性化
アクションプラン（年間活動計画）作成し、いつまでに、だれが、なにを、どうする を明確にし活動する。
- ★情報発信の活発化
 - ・全学級で学級通信、予定表等を発行する。（2週に1回程度以上）
 - ・ホームページを月2～3回以上更新
- ★個の指導の充実
 - ・教育目標の段階表を作成する。それと連動した6年間を通した
 - ・児童個人カルテを作成し、継続的系統的指導のため活用する。
- 地域の教育力・資源を生かした活動の継続、一層の推進
 - ・地域活用マップ、リストの整備・充実（自然・設備・行事など）
 - ・ゲストティーチャーのリスト作成・活用
 - ・学習ボランティアの活用
 - ・地域行事への参加（照姫まつり・育成行事・地区祭など）
- 安全性と環境美化の確保
定期的な点検（複数で巡回）、美化・整備作業の実施

2 今年度の重点課題

今年度、特に重要視し、一定の成果を挙げていかなければならない課題について以下に掲げる。全職員は、しっかりと心に留めて職務にあたってほしい。

①校内研究の成果を確認し、日常の体育学習指導に定着させる。

- ◆昨年度まであまり、取り上げていない領域について実践する。
- ◆「自己の指導力の向上・授業改善 → 児童の変容」を実感する。
- ◆「継続的に活用できる財産形成 → 自己の力量・用具・資料等」
- ◆「一単元の研究 → 他単元他教科等での応用・試行」を実践する。

★本校校内研究の究極の目標は、継続的に一定レベルの質をもった体育学習が、すべての学級で展開できるようにすること。

②学校生活の安定化を一層実現する。

教職員の尽力により、児童の生活は安定化してきた。しかし、確実に揺るぎないものとなっているわけではない。何かのきっかけで不安定化する可能性が依然としてある。特に、発達の・家庭的要因等で集団生活になじめない児童の対応を巡り、学級が不安定化する兆候もある。また、児童相互・児童と教職員の関係において、感情的にすれ違いが生じることもある。

すべての教職員は、児童の実態や心情を注意深く捉え、健全な方向へ導いていけるよう、指導の在り方を工夫していくことが肝要である。

<例>

- 叱られることに慣れていない子 ⇒ 個人的に強く叱ると感情の齟齬が生じる
⇒ 他の子がいないところで、寄り添いながら改善へ迎えるよう導く。
- 自己の行動をなかなか変えられない子⇒注意されることが多くなる。⇒「自分ばかり注意されるからいやだ」と考える。⇒ますます指導が入らなくなる。
⇒具体的に行動を教える。少しでも改善したことを認め、褒める。
- いきなり叱られると反発、逃避しようとする子⇒「どうしたの」と問いかけることで、注意喚起できる。
- ICT活用や課題解決的学習など児童が意欲を高くもてる工夫・しかけを多く取り入れる。
- 週1回以上の学級運動遊びを継続する。
- 特別活動の充実を図る。(係活動、学級会、行事実行委員会等を発達段階に応じて主体的に行えるように 計画的に働きかけていく。)

③職場風土の一層の醸成を図る。

昨年度まで、目指していた「和と活力にあふれる学校」が、かなり具現化してきた。それを継続し、さらに発展することが肝要であるが、本年度、職員の入れ替わりが多くあったことから、全員で職場風土を醸成することについて気にかける必要があると考える。

学校現場の調査研究から、インフォーマルコミュニケーション（休憩時間や放課後等の職員同士の会話・議論など）が活発な学校、また、3人以上のファシリテーター（何かをやろうと働きかける人）とそれをフォローアップ（協力・後押し）する職場風土がある学校ほど改善が進み、成果を挙げていることが明らかになっている。

全員が「これをやってみよう」「それはいいね。」「もっとこうやったら、よりうまくいきそう。」「〇〇さんの、工夫はいいね。自分もやってみたいので教えて。」「これ困っているんだけど。」「だったら、こんなしかけをしてみたら。」などと気軽に前向きにやりとりすることが、職場風土を醸成する基盤となる。ぜひ、ここがけておいてもらいたい。

④次期学習指導要領の趣旨に即した実践を試行していく。

平成32年度から全面実施となる学習指導要領が示された。これからその趣旨について学び、学習内容や方法について具体的にしていけることが求められる。

特に、新しい社会の創造に向けこれまでの指導方法から大きく脱却することができるようになっていくことが必要と考える。一足飛びにはできないが、徐々にできることから自分なりに進めていくことを心掛けたい。改善イメージや資料を参考として、校内研修のみならず各自で学び取る機会をつくってほしい。

<改善イメージ>

学習開始の合図

係児童「今日の学習課題は〇〇でした。意見を出してください。」

児童A「それについて、私は～と考えます。みなさんはどうですか。」

児童B「それに賛成です。なぜなら～だからです。」

児童C「私は同じ部分もありますが、少しちがう考えがあります。」

「この資料をみてください。」

対話が進む。

教師「そろそろ時間がせまってきました。まとめに移りましょう。」

児童D「今日、考えたことはこうまとめられると思います。」

児童E「次の課題として〇〇が残ったと思います。」

教師「では、次の時間の確認と学習の振り返りをしましょう。」

「新しい課題について、自分の考えを用意しておきましょう。」

3 今年度の達成目標と方策

(1) 児童の運動への意欲・体力の向上や健康・安全教育の充実を図る。

◎児童アンケートで、運動への意欲の高まりを90%以上が実感できることを目指す。

●体育学習の質的向上を図る。

- ・通常の体育学習を意欲や学び方・技能が身に付くものとするよう改善する。
- ・体育科における学習規律、集団行動の徹底
- ・自分に合っためあてをもち、追求していく学習の展開
- ・学び合う姿勢を身につける学習の展開
- ・価値ある運動教材の選択
- ・意欲を高め、体力や技能を高める場の設定と工夫
- ・用具や学習カード等の整備
- ・体力テスト結果を踏まえた指導の工夫

●体育的活動の充実を図る。

- ・定期的な体育的活動の時間設定のための試行をする。(体育朝会等)
- ・休み時間、放課後等の運動の活発化日常化への取り組みや遊びの紹介

- ・夏季水泳指導の体系化統一化
- ・マラソン大会、なわとび、鉄棒月間の実施を継続していく。
- ・遊具等の検定表、持久走・なわとび・水泳等の目標カードなどの活用
- オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
 - ◎重点的に育成すべき5つの資質を念頭において指導する。
 - ①ボランティアマインド
 - ②障害者理解
 - ③スポーツ志向
 - ④日本人としての自覚と誇り
 - ⑤豊かな国際感覚
 - ◎4つのテーマ<・オリンピック・パラリンピックの精神・スポーツ・文化・環境>について4つのアクション<・学ぶ(知る)・観る・する(体験、交流)・支える>で取り組んでいく。
 - ◎割り当てられた国<メキシコ、ブルガリア、コンゴ、チャイニーズタイペイ、マーシャル諸島>について学ぶ。
- 健康・安全に関する教育を進める。
 - ◎学校安全計画にそった指導の継続と改善
 - ・食に関する指導の充実
 - *校内体制の確立 *指導計画の見直し *給食時の指導を実践
 - ・生活習慣病予防、心の健康づくり、薬物乱用防止、非喫煙等の学習の実施
 - ・防災教育の充実
 - *地震発生時の具体的対応の指導 *防災訓練の改善 *震災発生時のマニュアル改善
 - ・児童による安全マイマップ作りの実施<3学年の実態に応じた内容で実施>
 - ・安全指導の全学年系統的な実施<生活安全・交通安全・災害安全>
 - ・情報モラル、セーフティ教室の充実

(2) 児童の知的好奇心、活動意欲、思考力、表現力など学ぶ力を高める。

- ◎児童アンケートで学ぶ力の向上を90%以上が実感できることを目指す。
- ★昨年度までの研究成果を継続し、今年度も教材、教具、資料、実施方法などについて記録を残し、毎年活用できるようにする。<記録場所の明確化>
- 「学習スタンダード」を練り上げていく。
 - ・低中高ごとに「話し方・聞き方・調べ方・まとめ方」などの内容を統一的段階的に指導できるように改訂していく。
- 「週ごとの指導計画」の改善・活用を図る。
 - ・指導力の向上や対応に効果的な項目を工夫し、記入できるようにする。
- ICT器機活用した授業を各学級で継続的に行う。<学期に3回以上>
- 「児童による授業評価」等を実施し、授業改善に生かす。<年3回以上>
- 学校図書館の活用を図る。
 - <年間2単元以上、調べ学習・読み広げなど活用した学習を実施する。>
- 授業改善、指導法改善を進める。
 - ・児童の関心、意欲を大切に学習活動の工夫
 - ・考え、話し合い、深め合う活動の充実
 - ・児童の「学習のふりかえり」や保護者による授業アンケートの活用
 - ・体験的な活動や課題解決型学習の積極的な導入
 - ・外国語活動の充実
 - ・理解度に応じた学習資料、練習問題、ドリル等の整備
 - ・語彙を増やす活動の工夫＝漢字、言葉、ことわざ、慣用句等の練習 視写、音読、読書、語り
 - ・表現力を高める工夫＝スピーチ、ディベート、ポスターセッション、新聞作り、ミニ作文、日記
 - ・小グループ(4人程度)による学び合い活動の導入<中・高学年>
 - ・生活科、総合的な学習の時間の実践継続とさらなる改善
- 学習指導要領の理解を深め、実践を通し教材等を検証し蓄積する。
- 「考える」ことに必要な項目の分析を進め、段階的に指導する。
- <分析例>・変化や特徴に気がつく。・物事に関心を寄せる。・問題や課題を見出す。
 - ・原因を分析する。・資料を収集、整理、活用する。・論理的に思考する。

- ・思考のための知識や語彙を身につける。
- ・体験や経験（読書等による間接体験も含む）を豊富にする。

(3) 豊かな心の育成を図る。

◎児童アンケートで、学校生活に満足できている児童が95%以上を目指す。

★組織的な対応を強化し、いじめ・暴力・体罰のない学校生活を実現する。

- ①毎回の学年会での情報交換、確認
- ②情報の伝達方法の明確化<情報を得たとき、誰に、どのように>
- ③生活指導部会を中心とした具体的対応の明確化（フローチャート作成）
<予防・発見・解消に向けた具体策>
- ④定期的な調査の実施
☆毎月の実施できる調査の実践（4月末から）
<ふれあい月間（6・11・2月）に関連したアンケート実施>
- ⑤日常の指導の充実を図り、状況を報告<職員会議等で>
 - ・人との温かい関わり方を具体的なスキルとして身に付けさせる。
 - ・「いじめ」をしない、させないという意識を集団全体で高める。
 - ・人を大切にしない言動を許さない雰囲気をつくり、よい言動を実践させる。
 - ・ソーシャルスキルトレーニングの実施。（ノウハウを学んでいき、実態に応じ実施する。）
- 人権について発達段階に応じた指導を積極的に推進する。
 - ・具体的学習内容と身につけるべきスキルについて、学校全体で系統的に活用できるよう検討していく。
 - 特別の教科道徳の趣旨に沿った「考える」「議論する」活動を増やす。
 - 道徳授業公開講座の充実を図る。
指導案を学年で作成・検討し、教材を整備する。
- 特別支援教育を推進する。
 - ・スクールカウンセラー、心のふれあい相談員との連携を強める。
 - ◆スクールカウンセラー・心のふれあい相談員は、経営計画に基づき、教職員との連絡調整を密にとり、児童・保護者との相談活動、教職員への指導・助言を適宜行う。
 - ・特別支援教育の校内体制を確立し、ケース会議を開催する。
 - ・個に応じた指導方法の工夫を収集・蓄積し、校内に広め、実施していく。

◎児童アンケートで、自分の行動の変容を90%以上が実感できることを目指す。

- ★「生活スタンダード」に沿って指導実践と振り返りをし、徹底していく。
 - ・低中高ごとに「校内生活」の指導事項を統一的段階的に指導する。
- 基本的な生活指導の項目について児童への意識化、指導の改善を図る。
 - ・振り返りカードを作成し、児童・職員ともに1～2か月に1回活用する。
 - ・成果・改善点を確認し、改訂していく。
- 特別活動の改善、活性化を図る。
 - ・「学級会スタンダード」に沿った指導実践の充実を図る。
 - ・児童会活動、クラブ活動、学校行事のねらいや活動の具体例を明確化し、蓄積し、充実させていく。<学級会：話し合い活動を十数回実施する。>

(4) 一人一人に応じた効果的な指導を推進する。

◎きこえとことばの教室に通級する全児童が変容を実感できることを目指す。

- ・一人一人の実態を的確につかむ。
- ・効果的な指導法について研修を深め、実践・評価を継続していく。
- ・保護者との信頼関係を築き、連携を深める。

(5) 学校組織の改善や個の力の強化を進める。

- 自己の長所や課題を明確化し、目標をもつ。<自己申告書等を活用>
資質に関する一覧表、経験年数別身につけるべき力一覧、
ITC活用チェックリスト、人権感覚チェックポイント等を活用
- 資質や力量の向上を自ら図る。
区研究部などへの積極的な参加

- 各種研修受講、文献・先行研究事例集の研究、自主研修、先輩等に指導を仰ぐ
- 学校組織等の改善について検討する。
内部評価や各組織の記録、反省等から
事務・区職員等を含む分掌の見直しと改善<学校経営支援部を中心に>
 - 学校事務の適正で効率的効果的な実施<教育効果を高める学校事務の実現>
 - ◆事務職員・学校事務の中核として、予算・執行・経理・施設・備品・消耗品
給与・旅費・福利厚生等に関する業務を円滑に有効に行う。
 - ・給食会計事務を確実に進行。(未納の防止・解消)
 - ・副校長と連携し、調査回答、各種通知等の印刷・発送等を行う。
 - ・交換便、メール等の収受・整理等を行う。
 - ・学年会計が適正に実施できるよう支援する。(会計簿の作成等)
 - 学校給食の充実<安全でおいしく、バランスのよい給食の実現>
 - ◆学校栄養補助員・献立の研究と作成、指導資料の作成、給食だよりの発行
確実な発注、支払、書類整備などを行う。
 - ・食物アレルギー対応を徹底し、事故を防ぐ。
 - ◆調理員・人間関係を構築しチームワークを高め、安全・確実な作業を行う。
学校栄養補助員と連携し、給食内容の充実を図る。
 - ・安全な食材の確保、食中毒防止、異物混入等の事故防止を徹底する。
 - ・新しいメニューの開発や工夫したメニューの実施
 - 学校環境の整備・美化の推進<安全で気持ちのよい環境の実現>
 - ◆用務主事・校内環境の整備・美化の中核として、関連作業を行う。
 - ・校内美化をより推進する。
 - ・リサイクル、廃棄物等に関する作業・指導・支援を行う。
 - ・教職員や事務職員等と連携し、施設設備・物品の安全管理・
補修・作成・設置等を行う。
 - ・来客接待、物品受入、搬送等の作業を行う。

4 今年度の数値目標

- (1)～(3)について、保護者アンケートをとり、
「学校の取り組みについて」「児童の変容について」肯定的な評価が、
昨年度より多く得られるようにする。
- 児童によるアンケートをとり、教育活動の充実度を評価する。<再掲>
- 学級通信を月2回以上出す。<再掲>
- ICT器機活用した授業を、各学級で学期3回以上行う。
- 学校図書館を活用した学習を、年間2単元以上実施する。
- 地域行事等に3回以上参加する。